

「物部川環境学習バスツアー」

主催：物部川ふるさと交流推進協議会、アクア・リプル・ネットワーク

令和6年11月23日（土）に物部川環境学習バスツアーが実施されました。

香美市・南国市・香南市の物部川流域3市内の小学生とその保護者を対象に実施し、35組71名が参加しました。

各市の市役所から出発したバスは、まず物部川合同堰へ。山田堰井筋土地改良区の猪野事務局長から合同堰の役割などについて教えていただきながら、合同堰を見学しました。

次のポイントは永瀬ダム。永瀬ダムでは管理事務所の職員の案内により、普段は入れないダム内部まで見学をさせていただきました。ダムを下から見上げながら「造るのにはいくらかかった？」などの質問が出るなど大人も子どもも興味津々の様子でした。ダム内部の見学の後は管理事務所に移動し、ダムの歴史や構造、現在行っている堆積土砂の浚渫工事の取り組みなどについて教えていただきました。

次は奥物部ふれあいプラザに移動し、お待ちかねの昼食タイム。香美市林業婦人部と物部川漁業協同組合の協力により、鹿肉カレーとアユの塩焼きを味わいました。昼食会場では物部川の今と昔を比較したパネル展示を実施し、昔の物部川の姿を見て驚く参加者も多くいました。

昼食を食べた後は河口付近のアユの産卵場へ移動。移動中には仙頭大橋と新佐野大橋を通りながら、物部川の現状や課題を見て学びました。アユの産卵場では物部川漁業協同組合の松浦組合長から、産卵場の役割やアユの産卵について教えてもらいました。松浦組合長からは「黒い影を探してみよう」とのアドバイスをもらい、強風で水面が揺れる中でしたが参加者は必死に目を凝らして群れるアユの魚影を探していました。

バスツアー参加者のアンケートでは、「今まで知らなかった物部川の問題について学べて良かった」「アユが卵を産んでその赤ちゃんが見れて嬉しかった」など、物部川に関心を持ってもらえたことがわかるコメントが多くありました。

地元を流れる大切な物部川について、親子で楽しく学べるととても良い機会になりました。





